出雲地区納税貯蓄組合連合会優秀賞

「税金の大切さと未来について」

出雲市立平田中学校　三年　松本　真依

小学生の時、税についての調べ学習をしました。私はこの時税金は生活の中でどのように使われているのか不思議に思って本やインターネットを使って調べてみることにしました。

税金は、道路、上下水道、公園などの社会の整備や、教育、消防、医療、福祉などの公共サービスの提供など私達の生活にかかせないことが税金によって成り立っていると知ってとてもビックリしました。また色々な税金について調べているときに、「義務教育費」という項目に目がとまりました。私達が毎日学習している学校の校舎や、授業を受けるのには必要な教科書などは、すべて税金によってまかなわれるということでした。私は今まで税金を身近に感じたことはなかったけれど、こういうところで、私達を支えてくれていたことには驚きました。

では逆に、税金がなくなったらどのような生活になるのか調べてみました。

税金がなくなれば、消費税を払わなくても済むから、物も安くなるし他にも様々な税金がなくなったから、家庭で自由に使えるお金が増えるし、おかしや、おもちゃを沢山買ってもらえる。これは私の昔の考えでした。ですがそのことについても調べてみたら道路や橋の整備は壊れてしまったらお金がないので修理することができなかったり、通行料を求められたりされます。警察は、犯罪などを取締る警察官がいなくなってしまいます。教育面では子供達が安心して学べる環境を整えるための費用をまかなうことができなくなります。生活、福祉では、お年寄りや体の不自由な人などのための施設や、保育所の設置、医療機関の整備などが十分に行われず、困ったときに頼ることができなくなってしまいます。他にも、ごみ収集車が来なくて街中ごみだらけになります。このことを知って税金のありがたみを感じました。

現在、日本は「少子高齢化」の影響で医療や年金、介護などの費用が増えて問題になっています。私は社会の変化に合わせて、税のしくみを考えていくことが必要だと思います。「少子高齢社会」では、お互いが支え合っていくことが今まで以上に必要になり、税金の使い道や集め方をしっかり考えていくことが大切だとわかったし、日頃から税について意識をもって生活していくことが大切だということもわかりました。

私は普段から税について関心をもち、納税などの日本の義務をしっかり果たしていける大人になりたいです。